

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成30年度 第2回入間市健康福祉センター運営協議会
開 催 日 時	平成30年8月10日(金) 午後7時00分 開会・午後8時00分 閉会
開 催 場 所	入間市健康福祉センター3階 301・302会議室
議 長 氏 名	入間市健康福祉センター運営協議会会長 諸井 和江
出席委員(者)氏名	上杉 恵理 委員 金子 明美 委員 黒古 次男 委員 齋藤 勝久 委員 坂本 嘉久 委員 佐藤 啓吾 委員 田川 静子 委員 滝沢久美子 委員 寺師 良樹 委員 藤牧 利昭 委員 諸井 和江 委員 柳 辰男 委員 山本 寛 委員
欠席委員(者)氏名	今井 英雄 委員 臼井 秀 委員
説明者の職氏名	健康推進部長 晝間 昭彦 健康推進部次長 田代 清治 健康推進部参事兼所長 中村 孝 地域保健課長 須田 美菜子 地域保健課 主幹 吉川 真奈美 地域保健課 主査 石山 実穂
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	1 開会 2 会長あいさつ 3 議題(1)第3次健康いるま21計画の策定について (2)入間市自殺対策計画の策定について (3)その他 4 閉会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	なし
配 布 資 料	【第3次健康いるま21計画に関する資料】 資料1 目標と取り組みの方向(身体活動・運動(案)) 資料1-2 「第3次健康いるま21計画」に対するご意見と対応(身体活動・運動) 資料1-3 身体活動・運動(修正案) 資料2 目標と取り組みの方向(休養・こころの健康(案)) 資料2-2 「第3次健康いるま21計画」に対するご意見と対応(休養・こころの健康) 資料2-3 休養・こころの健康(修正案) 資料3 目標と取り組みの方向(生活習慣病予防(案)) 資料3-2 「第3次健康いるま21計画」に対するご意見と対応(生活習慣予防) 資料3-3 生活習慣予防(修正案) 資料4 目標と取り組みの方向(地域づくり(案)) 資料4-2 「第3次健康いるま21計画」に対するご意見と対応(地域づくり)



## 会 議 録 (2)

### 議 事 の 概 要 ( 経 過 ) ・ 決 定 事 項

#### 1 議 題

##### (1) 第3次健康いるま21計画の策定について

第4章 目標と取り組みの方向の内、「身体活動・運動」、「休養・こころの健康」、「生活習慣病予防」、「地域づくり」について説明した。

##### (2) 入間市自殺対策計画の策定について

第4章 計画の基本的な考え方、第5章 自殺対策推進のための具体的な取組について説明した。

##### (3) その他

健康福祉センター事業概要（平成29年度版）を配付した。

事務局より次回の協議会の日程について報告した。

## 会 議 録 ( 3 )

発 言 者	発 言 内 容
司会(健康管理課主幹)	開会(省略)
諸井会長	会長あいさつ(省略)
議長	<p>本日の出席委員は13名です。健康福祉センター運営協議会条例第6条第2項の規定に基づき委員の半数以上が出席されていますので、会議は成立します。会議録へ署名をいただく委員は滝沢委員にお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。はじめに、議題(1)「第3次健康いるま21計画の策定について」の内、資料1「目標と取り組みの方向」の内、「身体活動・運動」について事務局より説明願います。</p>
地域保健課主幹	<p>資料1の「身体活動・運動」について説明いたします。また、本日の会議に際し委員の皆様から事前に意見を頂戴しました。いただいた意見に対する対応策を資料としてまとめましたので、ご意見にお答えする形で説明させていただきます。</p> <p>資料1と資料1-2をご覧ください。「身体活動・運動」については17件の意見をいただきましたが、内3件は、他の6分野にも関わる意見でありました。この3件は資料1-2の1ページ、1番上から3番目にまとめましたので先に説明いたします。</p> <p>1点目の「目標の表記」について句点「。」がないのはなぜか。その他の表記にも句点がないが、資料4の2ページでは、句点がつけられているという意見です。目標はタイトルの側面もあることを踏まえ、句点「。」はつけず表記いたします。資料4の目標の句点は削除いたします。</p> <p>2点目の「目標値の表記」ですが、第2次計画では計画における目標値となっていたが、第3次計画では年度で示しているが、なぜかという意見です。年度で表記した方が具体的な時期が分かりやすいと考え年度表記といたしました。</p> <p>3点目の「現状と課題」の図表について%表示を人数に直すとnの数が違う。無回答の件数を記載すべきではないかという意見です。図表の%表示は「1%未満のもの」及び「無回答」については表記していないものがあります。これは図表の見みやすさを考慮したもので、現状のままといたしますが、注釈を記載させていただきます。</p> <p>資料1の1ページには「第2次健康いるま21計画の目標(指数)に対する評価」として、平成29年度に実施した市民意識調査の結果を踏まえAからDの4段階で評価を掲載しました。</p> <p>資料1-2の1ページ4番目、「女性の目標値との乖離が大きくさらに悪化している。原因の分析がないので対策を立てることが困難である。65歳以上の女性の歩数の減少や運動習慣の減少は全国的な傾向と思われるので全国的な原因分析と対策を参考にして入間市でも効果的な対策を立てて</p>

発 言 者	発 言 内 容
議長	<p>欲しい」との意見です。歩数は運動習慣及び身体活動量と関連があり、さらに歩行能力は下肢筋力及びバランス能力と関連があると言われていません。今回の調査では、65 歳以上の女性において、歩数及び運動習慣が悪化しており、体力・身体活動量の低下が理由と推測されます。対策としては、ロコモティブシンドローム・サルコペニア・フレイル予防、身体活動量を増加させるために「+（プラス）10」や「コバトン健康マイレージ」を進めていきます。</p> <p>資料 1 の 2 ページから 4 ページには「現状と課題」を記載いたしました。</p> <p>資料 1-2 の 1 ページ 1 番下、「①日常生活の歩数」について 2 行目に「女性について 20 歳から 64 歳までの歩数を男性同様に記載したらどうか。」との意見です。こちらについては 2 行目中ごろの「前回調査より増加し、」の後に「20～64 歳女性は 6,075 歩であり前回調査とほぼ変わらず、」を加筆いたします。</p> <p>資料 1 の 3 ページ、4 ページについて、資料 1-2 の 2 ページ、3 ページで字句の誤り等多くの指摘をいただきました。資料 1-3 の修正案のとおり訂正させていただきます。</p> <p>資料 1 の 5 ページには「目標」と「目標値」を設定いたしました。</p> <p>同資料 6 ページには「目標の実現に向けた主な取組み」を 7 項目挙げています。</p> <p>資料 1-2 の 3 ページ 2 番目、「サルコペニア・フレイルについて注釈をつけて、読み手に分かりやすくしてはどうか。」との意見です。こちらについては「サルコペニア（筋肉量の減少による身体機能の低下）」と「フレイル（身体・こころ・社会性の虚弱）」の注釈を記載いたします。</p> <p>同ページ 3 番目、「家族や仲間と運動に親しむ機会」「誰もが取り組みやすい運動」等は、具体的にどのような機会や運動をイメージしているかとの意見です。こちらについては幅広い世代が参加できるスポーツイベント、「体力測定会」「ラジオ体操会」「クロスカントリー競争」等の開催や手軽に始められるウォーキング講座、軽スポーツ教室等の開催を考えています。</p> <p>同ページ 4 番目、埼玉県コバトン健康マイレージ事業についてほとんどの方が「知らない」と答えます。PR の工夫をとの意見です。こちらについては今後も広報いるま、市公式ホームページへ掲載するほか、各種イベントや講座等で PR を行っていきたいと考えます。</p> <p>また、その他に「トレーニング室の体力測定の方法」、「市民意識調査における質問の仕方」についてご提案を頂きました。これらについては、今後の課題として参考にさせていただきます。</p> <p>事務局の説明に対して質疑がありますか。 (質疑なし)</p>

発 言 者	発 言 内 容
地域保健課主幹	<p>次に、資料 2「休養・こころの健康」について事務局より説明願います。</p> <p>資料 2 の「休養・こころの健康」について説明いたします。資料 2 と資料 2-2 をご覧ください。</p> <p>資料 2 の 1 ページには「第 2 次健康いるま 21 計画の目標（指数）に対する評価」として、平成 29 年度に実施した市民意識調査の結果を踏まえ A から D の 4 段階で評価を掲載しました。(1)睡眠への対応では「睡眠によって休養が十分に取れていない人の割合」、(2)ストレスの軽減では「最近 1 カ月にストレスを感じた人の割合」、「ストレス解消法がない人の割合」を示しています。(1)の評価は「D」、(2)の評価はそれぞれ「D」、「C」と悪くなっています。</p> <p>こちらに関して意見をいただいています。資料 2-2 の 1 ページ 1 番目、「何故、現役である 50 歳代が入っていないのでしょうか」との意見です。第 2 次計画で取り上げた年代が 30 歳代、40 歳代であったため、第 2 次計画との比較を記載しました。そのため 50 歳代は記載していません。なお、第 3 次計画の目標については年代を削除しております。</p> <p>同ページ 2 番目、「この年代へ睡眠による休養の大切さを伝えていくことが重要」とあるが、必要性の認識はあるはず「この年代の睡眠の阻害要因を探り、対策を立てることが必要」と文言を修正してとの意見です。こちらについては、体調不良やうつ状態の原因が睡眠不足だと気が付いていない人は多く、健康の分野から提言できることは「睡眠による休養の大切さを伝えていくこと」と考えますので原文のままとさせていただきます。</p> <p>資料 2-2 の 1 ページ 3 番目、「図内の下に示されたグラフの図示説明はもう少し大きく表示しないと分かりにくいのでは」との意見です。こちらについては見やすくなるよう工夫し、対応していきます。</p> <p>同ページ 4 番目、「図 1 から図 5 のクロス集計で各項目について、男女別、年代別の集計をした上で、意味のあるものをピックアップしたのか」との意見ですが、そのとおりであります。</p> <p>資料 2 の 3 ページ、4 ページについては、資料 2-3 のとおり修正案を作成いたしました。この修正案ですが資料 2-2 の 1 ページ 1 番下の意見を参考に、ストレスの解消法の有無をメインに表示するため、もともと表示していた図 3 の男女別を削除し、図 4 を拡大して見やすく表示しました。この修正を踏まえ、資料 2-2 の 1 ページ 5 番目で指摘いただいたとおり、アルコールやタバコで気分を紛らわせることは適切なストレス解消法ではないので、適切にストレスが解消できるようストレスケアについて講座等での周知に取り組んでまいります。</p> <p>資料 2-2 の 2 ページ 1 番目、図 4 の数値についてご指摘いただきましたが、こちらについては「前回会議で配布しました資料 12 の市民健康実態調査 調査結果 確定の問 33 の回答者数割の数値を採用しています。</p>

発 言 者	発 言 内 容
議長	<p>同ページ2番目、「ストレス解消法はない」と答える方は提言などを受け入れる可能性は少ない。むしろ、医療機関、公的機関、相談機関への相談に注目すべきではとの意見です。心身の不調が出現している方には専門機関をすすめることが先決ですが、その予防としてストレスの解消法を身につける重要性を周知していきたいと考えています。</p> <p>同ページ4番目、「目標値ごとにタイトルに①から④をつける必要があるのでは」との指摘ですが、目標値の1つ目の前に「①生活習慣を見直し、質の良い睡眠がとれる人を増やす」、また、3つ目の前に「②ストレスと上手に付き合い、生きがいを持って生活する人を増やす」と追記します。</p> <p>同ページ5番目、「目標の実現に向けた主な取組み」について、1項目、「睡眠の質について、情報提供し、飲酒に頼る睡眠の問題を周知していく。」との意見です。こちらについては「問題」となるところを周知するのではなく、「より良くするためにどうしたらよいか」という視点で周知していきたいと考えます。</p> <p>同ページ6番目はご指摘のとおり、2項目の2行目「睡眠の大切さついて」となっており、「に」が抜けていますので「睡眠の大切さについて」と訂正いたします。</p> <p>同ページ7番目、2項目目「事業所へ出向き」とは、具体的に何を考えているかとの意見です。こちらについては睡眠やストレスケアに関する出前講座の実施などを考えています。</p> <p>同ページ1番下、3項目のストレスを解消できるよう講座等だけではなく、ストレスを解消できる簡単な運動をトイレ等目につきやすい場所にポスターを掲示してはどうかとの意見です。こちらについては提案の内容を追加して、「誰もが適切にストレスを解消できるよう講座等のあらゆる機会を通じてストレスケアについての周知を行います。」という表現に変更します。</p> <p>資料2-2の3ページ1番目、3項目のストレス解消講座は、公的機関等への相談件数を考えると、受講者の期待が持てない。趣味講座やコミュニケーションの場を増やす方が有効ではとの意見です。趣味講座やコミュニケーションの場を増やすことは有効であると考えますので、場を増やすことに加え、人が集まる場に出向き講座等を実施し、ストレスケアについて周知していきます。</p> <p>同ページ2番目、4項目「生きがいを持てるよう、個人個人に合わせた支援」のイメージがわからない。誰がどのような形で行うのかとの意見です。こちらについては、その人が、その人らしく生活できるように、その人が抱える問題等を解決すべく専門職が相談に応じることを想定しています。</p> <p>事務局の説明に対して質疑がありますか。</p>

発 言 者	発 言 内 容
地域保健課主幹	<p>(質疑なし)</p> <p>次に、資料3「生活習慣病予防」について事務局より説明願います。</p> <p>資料3の「生活習慣病予防」について説明いたします。資料3と資料3-1をご覧ください。</p> <p>資料3の1ページには「第2次健康いるま21計画の目標(指数)に対する評価」として、平成29年度に実施した市民意識調査の結果を踏まえAからDの4段階で評価を掲載しました</p> <p>資料3-2の1ページ1番上、「2)メタボリックシンドロームに関する状況」を「該当者及び予備群の状況」と明記してはどうかとの意見です。表の下段にメタボリックシンドロームの該当者及び予備群が記載されていますので、表題は原文のままいたします。</p> <p>同ページ2番目、メタボとがん検診について「状況の改善が見られず厳しい。現役のサラリーマンはメタボチェックやがん検診を受けているが、退職後は会社からの働きかけもなくなり気が緩みこのような事態となる。60歳以上で国民健康保険に新規に加入した人を対象にインセンティブをつけて健康教室に参加させるなど退職時に意識を植えつければ目標値の達成も容易になるのではないか」との意見です。指摘いただいたとおり、退職後は働きかけがないと健診の受診や健康教室への参加は任意となるため、動機づけがないとなかなか行動を起こすことが難しい状況です。退職後の世代への働きかけについては、国保医療課と連携して国民健康保険に新規加入した方を対象に、健診の受診勧奨や各種保健事業のご案内など参加を促すための対策を考えていきます。</p> <p>同ページ3番目、健康診査の受診状況についての4行目「女性は夫の扶養家族である場合が多く健診を受ける機会や必要性を認識していない可能性があります。」とあるが、気になる表現と思いますとの意見です。確かに女性の受診率が低い理由については、明確な根拠が見いだせないため、この文言は削除いたします。</p> <p>同ページ4番目、生活習慣病・メタボリックシンドロームの認知度の状況の図3について、この図だけが枠がないのはなぜか。また、図の表題を「～認知している人の平成24年度と29年度の差」としてはどうかとの意見です。枠はつけます。また「～認知している人の割合」のあとに「前回調査：平成24年度との比較」との文言を追加します。</p> <p>資料3-2の2ページ1番目、目標の実現に向けた主な取組みについて、「メタボは自覚症状がないことから関心は少ないと思われるが、ロコモは自覚があるので反応はあると思われる。また、フレイル予防講座とか、神奈川県でも推奨している「未病」をテーマにした講座も実施価値があるのでは」との意見です。メタボリックシンドロームや生活習慣病予防については、普及啓発のため保健事業を引き続き行っていきます。あわせてロコモやフレイルについても他市の事業等を参考にしながら身体活動・運動の</p>



発 言 者	発 言 内 容
議長	<p>分野も含め事業を実施したいと考えます。また、「未病」についても今後の重要な課題ですのでご意見を参考として事業実施に向け取り組みたいと考えます。</p> <p>事務局の説明に対して質疑がありますか。 (質疑なし)</p> <p>次に、資料4「地域づくり」について事務局より説明願います。</p>
地域保健課主幹	<p>資料4の「地域づくり」について説明いたします。資料4と資料4-2をご覧ください。</p> <p>この「地域づくり」の分野については、今回の第3次計画から策定する新規の分野になります。したがって「第2次健康いるま21計画の目標(指数)に対する評価」はありません。(1)現状と課題から説明いたします。</p> <p>資料4の1ページ、①として地域のつながりに関する状況について、地域や社会のきずなが機能することで、地域全体が助け合い、健康づくり活動の強化につながることから、地域づくりを意識した健康づくりが必要であると記載しています。②として地域活動に参加したことがある人の割合を記載しています。</p> <p>資料4-2の1ページ、1番目、図1のグラフの部分を大きくしてほしいとの意見ですが、見やすくなるよう工夫いたします。</p> <p>同ページ2番目、図2と図3について、スポーツ活動は「自分にあった適度な運動」「消費に見合う栄養摂取」「適度な休養」とセットで健康状態の改善につながると知られている。よって、縦割りではなく、スポーツ教室で栄養・食生活指導を行うなど、スポーツ活動を健康増進につなげる形での推進が望ましい。食生活改善も、スポーツ活動と関連づけ「消費と摂取」とした方がより伝わりやすいと思うとの意見です。こちらについては事業を実施する際の参考にさせていただきます。</p> <p>同ページ3番目、「多様な生活スタイルに合わせた」の多様な生活スタイルとは、具体的にどのようなことかとの意見です。こちらについては独身の方、子育て中の方、定年退職後に自分の時間が持てるようになった方など、性別、年代、家族形態、仕事の有無などに応じて生じる生活の違いを想定しています。</p> <p>同ページ1番下、(2)目標、②健康を支え守るための環境を整備しますについて「健康を支え守るための環境」とは、(4)目標の実現に向けた主な取組みと、どのように関係づけられるかとの意見です。ここで記載している環境はソフト面での環境です。地域のきずなが健康に良い影響を与えることから、地域のきずなや助け合いを生かし、地域住民とともに取り組む事業を実施したいと考えています。</p> <p>資料4-2の2ページ1番目、スポーツ・文化・芸術活動への参加が多</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>く、参加希望者も多いことを活用し、イベント参加のインセンティブを用意したらどうか。西武鉄道のハイキングはポイントが累積すると商品券などに交換できる。男性の歩数が伸びているのは多分に西武鉄道のハイキングのおかげであり、同様の手法を考案すれば参加者は増加すると思われるとの意見です。市では埼玉県コバトンマイレージに取組み2年目でありますので、いましばらくは埼玉県の事業を活用し取り組んでいきたいと考えています。</p> <p>同ページ2番目、(3)目標値、②健康を守るための環境整備について、目標値(平成35年度)が「現状値以上」とありますが、できたら数値で表した方がよいとの意見です。地域のつながりは年々希薄になることが予測されます。今後、現状を維持していくことが難しくなると想定されますので、目標値は「現状値以上」とさせていただきたいと考えます。</p> <p>同ページ1番下、(4)目標の実現に向けた主な取組みについて、年に1度「民生委員・児童委員協議会」の役員会でPRをお願いしますとの意見ですが、今後検討させていただきます。</p>
議長	事務局の説明に対して質疑がありますか。
藤牧委員	資料4-2の1ページ3番目への対応についてですが、「独身の方」という表現よりも「1人暮らしの方」と表現する方が適切ではないか。
地域保健課主幹	「1人暮らしの方」という表現に訂正いたします。
佐藤委員	資料4の3ページ、(3)目標値、②健康を守るための環境整備の目標値について、現状値があるのに、なぜ、数値で表記しないのか。
地域保健課主幹	平成29年度の現状値は43.3%であり、その現状値を下回らないようにという意味で現状値以上といたしました。
議長	次に議題(2)「入間市自殺対策計画の策定について」の内、資料5「計画に基本的な考え方」について事務局より説明願います。
地域保健課主査	<p>資料5と資料5-2をご覧ください。</p> <p>資料5-2の1ページ1番目、(4)実践と啓発を両輪とした推進について「積極的に普及啓発を行います」とあるが、具体的にどのような方法を考えているか。また、今までの実践内容はとの意見です。全庁における取組としては、平成22年から毎年9月10日の世界自殺予防デーにあわせて、自殺予防キャンペーンとして、市役所本庁舎ロビーでのパネル展示や相談窓口のリーフレットを街頭で配付しています。自殺対策関係各課の取組としては、生きる支援に関するリーフレットの配布や啓発イベントの開催、</p>

発 言 者	発 言 内 容
	<p>小中学校における命の大切さやSOSの出し方の教育を引き続き実施していきます。</p> <p>同ページ 2 番目、(5)関係機関の役割の明確化と連携・協働の推進について「市をはじめ、関係団体、民間団体、企業、市民等」の中に、保育所・幼稚園・小中高等学校等も含まれるのかとの意見です。こちらについては保育所・幼稚園・小中高等学校等も含みます。</p> <p>同ページの 3 番目、4 施策の体系の重点施策の文章について「下記の 3 つを重点施策として」とありますが「対象として」ではないでしょうかとの意見です。こちらについては文章の変更は行なわず、重点施策の項目を「高齢者」を「高齢者対策」、「生活困窮者」を「生活困窮者対策」、「勤務・経営」を「勤務・経営対策」と対策をつけた表記に変更します。また、資料 6 の第 5 章「自殺対策推進のための具体的な取組」の 10 ページ以降についても同様の表記といたします。</p> <p>同ページの 1 番下、国全体も入間市でも効果が上がっており、現状の政策の継続で十分と思われるとの意見を頂きました。こちらについては今後も自殺対策の施策を継続して展開していきます。</p>
議長	事務局の説明に対して質疑がありますか。
黒古委員	資料 5 の 4 ページ、4 施策の体系の重点施策への意見に対する回答で、「対策」という文言をつけるとのことだが、「対策」という言葉には冷たさや機械的なものを感じる。「支援」という言葉の方がよいのでは。
地域保健課主査	「支援」という表記については検討いたします。
山本委員	資料 5 の 3 ページ、3 計画の数値目標の算出根拠について、数字が多く文章がわかりにくい。
地域保健課主査	数字については省きすぎると根拠がわかりにくくなるため表記しています。
山本委員	同じく、目標の算出根拠の 3 段落目、「平成 35 年までの自殺率は 11.6 以下となります」とありますが、この計算方法は 10 年間で 30%の減少を 7 年間で減少にしたもので間違いはないでしょうか。
地域保健課主査	そのとおりです。
藤牧委員	元号の改正に伴い平成は 31 年 5 月で終わり平成 35 年はない。この表記については訂正するというのでよいか。

発 言 者	発 言 内 容
地域保健課長	<p>平成 31 年 5 月 1 日以降の表記については、本計画を完成させる段階で新元号が発表されていれば新元号を使用しますが、発表されていない場合は平成と括弧書の西暦を併記することになります。これは、市としての基本的な方針であります。</p>
議長	<p>次に資料 6「自殺対策推進の具体的な取組」について事務局より説明願います。</p>
地域保健課主査	<p>資料 6 と資料 6-2 をご覧ください。</p> <p>第 5 章は、自殺対策関係各課の取組む内容となります。いただいたご意見に対する回答は、各担当課で作成しております。</p> <p>資料 6-2 の 1 ページ 1 番目、基本施策 2 の 3 子育て支援の充実について「特別児童扶養手当」の内容の中で、「20 歳未満の児童」とあるが、成人年齢の引下げがいろいろ言われており、違和感があるとの意見です。こちらはこども支援課が担当課となりますが、「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」の第 1 条、第 2 条で「20 歳未満で精神または身体に障害を有する児童」と規定されており、法律と同様の表記とするものです。</p> <p>同ページ 2 番目、基本施策 3 の 3 学校教育の場における人材育成について取組の中で「認知症サポーター養成講座（再掲）」とあるが、理解できませんとの意見です。こちらは介護保険課が担当になりますが、「誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して、認知症サポーター養成講座を各学校や P T A、教職員向けに開催します。中学生にはより分かりやすく伝えるため、認知症地域支援推進員が中心となり、中学生向け認知症サポーター養成講座のパワーポイント資料を作成します。」と変更いたします。</p>
議長	<p>事務局の説明に対して質疑がありますか。</p> <p>(質疑なし)</p> <p>それでは「その他」を議題といたします。委員の皆様から何かございますか。</p> <p>(意見等なし)</p> <p>なければ、事務局から連絡事項等ありますか。</p>
健康管理課長	<p>2 点ほど連絡事項があります。1 点目は、平成 29 年度の健康福祉センターが行った事業の実績をまとめた「健康福祉センター事業概要(平成 29 年度版)」を配付いたしましたので、ご高覧いただき、ご活用いただければと思います。</p> <p>2 点目、次回の当協議会の開催日程ですが、9 月 26 日(水)午後 7 時から健康福祉センター 301・302 会議室での開催を予定しています。</p>
議長	<p>これで議題は終了しましたので、議長を降ろさせていただきます。ご協</p>

発 言 者	発 言 内 容
司会(健康管理課主幹)	力ありがとうございました。  諸井会長、大変お疲れ様でした。閉会の挨拶を柳副会長よりお願いします。
柳副会長	閉会あいさつ(省略)
司会(健康管理課主幹)	これで平成30年度第2回健康福祉センター運営協議会を終了いたします。

議事の内容・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。

平成30年 8月29日

議 長 の 署 名 \_\_\_\_\_ 諸井 和江 \_\_\_\_\_

議長が指名した者の署名 \_\_\_\_\_ 滝沢 久美子 \_\_\_\_\_